

広島大学

令和 8 年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜Ⅱ型

解答例・出題の意図等

文学部 人文学科
地理学・考古学・文化財学コース
考古学

科目名：小論文

解答の公表に当たって、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

令和8年度 広島大学光り輝き入試総合型選抜（Ⅱ型）
文学部人文学科 小論文問題 解答又は解答例 出題の意図等

分 野	考古学
-----	-----

問Ⅰ 古墳から出土する人骨の研究は、形質的特徴（性別・体格・容貌・血液型・遺伝情報など）や生前の履歴（活動状況・健康状態・栄養状態・摂取食物・罹患歴・受傷痕・妊娠痕・生活地・死亡年齢・死因など）を明らかにできる点で重要である。課題図書では、性別及び親族関係の分析と、死亡年齢に関する分析が主な例としてあげられている。これらの内容を具体的に解説していれば、その内容に応じて評価する。

次に性別・親族関係については、歯冠計測値や頭蓋形態小変異、DNA から分析が行われており、現代的な家族のイメージなどから想起される性別と埋葬の関係が、実際とは異なっていることが明らかにされてきている。また人骨の分析をもとに被葬者の親族関係についての基本モデルが提出され、被葬者間関係に時期差や地域差があることも明らかになっている。課題としては、近年のDNA分析の成果と、形質的特徴に基づく推定との間にずれが生じていることがあげられている。また年齢については歯の萌出・咬耗状況や頭蓋骨縫合度にもとづく分析がなされ、死亡年齢やその男女別様相などが推定されている。死亡年齢の分析からは、被葬者が活躍した時間の長短が推定できることから、大王墓の数と大王の在位期間との関係や、被葬者の実力推戴説などを検証する論点となっている。課題としては、歯の咬耗の度合いは食物などに影響されること、鑑定者によって鑑定結果に多少のずれが生じることなどがあげられる。課題図書に示された上記二つの具体例について、それぞれの課題を含めた論述ができていれば、評価基準を満たすと判断する。

問Ⅱ 古墳時代前期末葉前後には佐紀古墳群や古市古墳群などの造営が開始されるが、周辺諸地域の首長墓系譜の変動、副葬品の変化とも重なることから、畿内中枢勢力の交替が起こり、それに連動して周辺地域における連携勢力も刷新されたという論点を課題図書に沿って解説していれば、その内容に応じて評価する。

次に課題図書で著者は政権交替論が古墳時代の研究に重要な視座を提供し、政治史的な分析を深化させたことについては評価するが、畿内最上位の大型古墳のみが突出した規模に成長していく古墳時代中期の造墓活動の変化を重視すれば、畿内主要古墳群の造営は大王墓の墓域移動といったたぐいのものであるとして、政権交替論を否定する。さらに畿内中枢域において連綿と繰り返された巨大古墳の造営からは、当時の権力資源を支配的かつ恒常的にコントロールする政治機構の成立を想定することができ、これを畿内における古代国家の成立とみる。このような課題図書の意見をこれまでの政権交替論と対峙させて論述できれば、評価基準を満たすと判断する。